

3-4 人との関わりの面からみた課題

(1) 治水を考慮した堤防などの施設管理を行う。

① 堤防の適正な利用に努めること

東海豪雨時には、堤防上に違法駐車された車両や堤防近傍の浸水による避難車両で堤防天端が占拠されたことが、水防活動の妨げになりました。また、他路線の浸水によって堤防兼用道路の通行車両が増えたり、堤外アンダーパスが水没したために交通途絶が起こったことから、大規模な渋滞が発生しました。このために、本来の機能である河川管理用通路としての機能を十分に果たせない状況となり、緊急時の通行に大きな支障が出ました。日常的に交通量が多いために、河川巡視の際の車両停車すら困難な路線があり、河川改修工事に伴う通行止めを実施するのも難しい状況です。

河川の維持管理や水防活動を円滑に行い、河川管理用通路としての本来の機能を確保するために、近隣の交通網を含めた堤防道路のあり方について、堤防道路管理者に対し検討を求めする必要があります。



●東海豪雨で崩壊した法面状況(矢田川 2.0K付近)



●庄内新川橋東詰交差点の状況(0.5K付近)

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

◆治水上の課題(堤防)

○堤防の適正管理

- ・堤防道路を通過する大型車両によって堤防が弱体化する危険性がある。
- ・ガードレールや標識、冠水表示板、信号機等の道路付属物による堤防の弱体化も課題。
- ・堤防道路の渋滞や放置・駐車車両やガードレールによって水防活動への支障がでないようにする必要がある。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・堤防道路を通る自動車が堤防に与える影響が心配。
- ・堤防道路を安全に自転車で走りたい。
- ・車で安全に走れない堤防道路の区間がある。対策を講じるべき。
- ・堤防を車で走行できない区間があって困る。
- ・河川整備による交通制限が心配。
- ・桜並木や松並木を保全しつつ、堤防の適正な管理を行うべき。
- ・堤防道路を走る車の騒音を防止すべき。

②水防緊急時の道路を確保すること

東海豪雨時には堤防道路上に駐車された車両により、水防活動に影響がありました。また、兼用道路となっていることから、渋滞により緊急時の通行に支障がありました。

土岐川庄内川の河川の維持管理や水防活動をスムーズに行えるように、水防緊急時の道路を確保する必要があります。



●水防活動の様子



■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

○管理用通路の確保

- ・洪水時の管理用通路の確保が必要。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・堤防道路上の違法駐車の問題。
- ・増水時に堤防道路が通れなくなるのが不便。

③堤防上の占有家屋や営利施設の移転を促進すること

土岐川庄内川の堤防には、家屋が占有している区間があり、堤防整備など河川改修工事の支障となるため、居住者、家屋所有者などの理解を得ながら、順次占有家屋の移転を進める必要があります。また、企業やゴルフ場の事務所や自動車学校の校舎などが堤防上を占有している箇所もあり、水害から住民の方々を守るという堤防本来の機能確保や、公共用財産の適正な使用の観点から、それらの事業者に対しても、同様の移転等の措置をとっていく必要があります。



■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

○占有家屋の移転

- ・占有家屋によって必要な堤防の断面等が確保できない箇所がある。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・堤防の法面に民家があって基準の勾配が取れていないような気がする。

(2) 治水を考慮した高水敷利用を行う。

①公共空間として適正利用を促進し、公共財産として適切な利用を推進すること

土岐川庄内川の高水敷は、公有地では公園緑地、グラウンドなどとして使われているほか、高圧送電線の鉄塔も縦断的に高水敷を占有しています。またゴルフ場や自動車練習場は占用地（河川管理者から借りている土地）において、古くから事業を営んでいます。

私有地についても、特産のシソなどの畑、竹木林などのほか、ゴルフ練習場、自動車学校、学校等の野球場などとして活用されており、河口部のアシ原も私有地であり、かつては籐(スダレ)の原材料の供給地となっていました。

河川敷が公共空間、公共用財産であることを踏まえ、治水上の安全性を確保しつつ市民のニーズに応じた良質な公共サービスを提供できる場にするために、公園管理者と連携して、河川敷公園の施設利用をネットワーク化したり、公園内でのゴルフ練習や犬の放し飼いなど迷惑行為禁止の徹底や、公共用財産の活用により、家庭菜園などの新たなニーズにも対応していくことが重要です。



●矢田川合流点付近(17.0 km付近)
本川:グラウンド(名古屋市)
矢田川:自動車学校(民間)
ゴルフ場(民間)



※平成15年4月現在



●豊公橋付近(11.0 km付近):畑地



●新川洗堰付近(19.0 km付近):グラウンド(名古屋市)

■流域委員会でこれまでの議論のポイント

◆治水上の課題（高水敷）

○高水敷の適正利用

- ・治水上の安全性を考慮し、河川敷の健全な使い方を検討すべき。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・ペットのフンの処理やゴルフの禁止など、河川敷の利用者のマナー向上を。
- ・河川敷を利用するルールが必要。
- ・ゴルフ場から飛んでくる球が危険で心配。
- ・下流の河川敷利用の見直しが必要。
- ・河川敷で憩い、遊び、スポーツ、バーベキューやキャンプなどのレクリエーションを楽しみたい。
- ・河川敷で安全に遊べる場所があると良い。
- ・河川敷で野菜づくりを楽しみたい。
- ・現在草が生い茂っている川辺が公園などの遊べる場所になるとうれしい。
- ・河川敷で犬と遊べると良い。
- ・河川敷で犬を心配せずに子供が遊べるようになるとよい。

【参考】流域自治体から寄せられた意見

- ・河川・水環境の学習スペースや憩いの広場等の高水敷の適正利用を図り、流域住民の治水等に対する意識の高揚を図る。〈一宮市〉
- ・自然環境の保全・再生を目指すなら、農地などの堤外民地の買収を進めてはどうか。〈新川町〉

②高水敷の営利施設やグラウンドの利用方法、畑などの資材放置への対策を行うこと

洪水時に水に浸かってしまう高水敷にある施設は、河川の管理上、洪水で施設が流れたり、水の流れの阻害になることを防ぐために支障のないところへ移動等することになっています。

しかし、巻き上げのできていない防球ネットや、倒伏されていない支柱やバックネット、移設ができていないトイレや小屋などの施設や、畑などに放置された農業資材や廃風呂桶などが洪水により流されたりする事例があります。こうした施設や資材の流出は、場合によっては、堤防などの施設に重大な被害を与える可能性があるため、対策を講じ適切な管理を強力に推進する必要があります。

営利施設や放置資材への対策は、ホームレス対策やゴミの不法投棄抑制にもつながる大変重要な課題です。



●ゴルフ場（洪水後の状況）



●グラウンド（洪水後の状況）

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

○占用施設の適正利用

- ・高水敷の占用施設には、洪水時に阻害となる等、管理上の問題がある。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・特定の人たちだけが利用できるのではなく、誰もが気軽に利用できる河川敷であるべき。

(3) 公共の河川空間として望ましい環境にする。

① 川へのアクセスを確保すること

土岐川庄内川の中下流部では、堤防が道路と兼用されている区間が長く、歩いて河川敷に行ったり、堤防上を安全に散歩したり、自転車で走ることが困難な状況です。また、駐車場が無いなど川に自動車アクセスしづらい区間もあります。身近な公共空間として、市民のみなさんが親しみを感じられる、利用しやすい川にするためには、川へのアクセスを確保する必要があります。

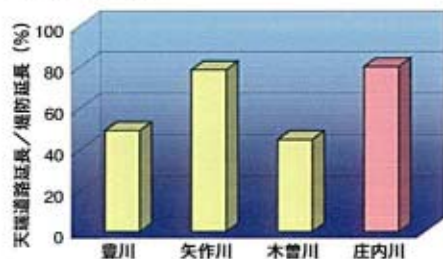
● 4.6K付近の堤防道路の状況



● 新大正橋下流左岸の状況



● 堤防道路割合



● 庄内川堤防道路通過交通量

河川名	岸区別	観測地点名	位置	区分	路線番号	路線名	平均24時間 自動車 交通量(台)	平日ピーク時間交通量(台/時)	
								大型車数	自動車数合計
庄内川	左岸	名古屋市申川区 中洲町	6.0km付近	県道	106	鳥ヶ池新田 名古屋線	13,318	168	954
庄内川	左岸	名古屋市中村区 岩塚町字八ツ屋通	9.0km付近	県道	106	鳥ヶ池新田 名古屋線	25,290	289	1773
庄内川	左岸	名古屋市中村区 日比津町字古川	13.0km付近	県道	106	鳥ヶ池新田 名古屋線	30,756	269	2155
庄内川	右岸	名古屋市西区 坂井戸町	18.0km付近	県道	162	松河戸 西枇杷島線	9,482	29	628
矢田川	左岸	名古屋市北区 成願寺町	3.0km付近	県道	202	守山西線	14,658	52	1132
庄内川	右岸	名古屋市北区 横町味原	21.0km付近	県道	162	松河戸 西枇杷島線	5,032	50	343
庄内川	右岸	春日井市 松河戸町字中村	29.0km付近	県道	162	松河戸 西枇杷島線	7,002	65	504

出典：平成11年道路交通センサス

■ 流域委員会でのこれまでの議論のポイント

◆ 環境（利用）上の課題

○ 川へのアクセスの確保

- ・ 堤防道路により堤内地と川が分断されていることに対し、川に車で行けるような設備も考える必要がある。
- ・ 堤防道路により堤内地から河川へのアクセス性が低下していることが課題。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・ 水に近づきにくい。気軽に水辺にアクセスでき、水とふれあえると良い。
- ・ 河川敷に下りにくい。安全かつ気軽に河川敷に下りられると良い。
- ・ 河川敷に気軽に行きたいが、堤防道路の車が危険。河川敷に安全にアクセスできると良い。
- ・ 主要な橋から河川敷に安全にアクセスできると良い。
- ・ 河川敷内の公園緑地へのアクセスを残したい。
- ・ 駐車する場所が無く、河川敷にも車で入りにくい。車で川に行きやすくなると良い。
- ・ 河川敷の駐車場が舗装されていないため、車が汚れて困る。
- ・ 定光寺周辺の景勝地に安全かつスムーズにアクセスできるようになると良い。
- ・ 橋が少なく、狭く、混雑する。スムーズに対岸と行き来できるようになると良い。
- ・ 対岸に安全に徒歩や自転車で行きたい。
- ・ 公共交通機関でアクセスできるようになると良い。
- ・ 周辺の道路渋滞を解消して欲しい。

②生物の移動障害を少なくして、生態系を育む河川環境をつくること

土岐川庄内川では、良好な自然環境が残っており、多数の生物が確認され、豊かな生態系を形成しています。生物の多様性の維持に資する河川環境を保全し再生することを重要視し、生物の移動障害（魚が川を上れない、小動物が河川敷を移動できないなど）となっている施設の対策を行うことが重要です。

堰や床止めなどの縦断的な魚類遡上対策と合わせ、堤防道路や緊急河川敷道路、護岸等の構造などに配慮するなど、横断的な動植物の移動障害、生息環境の分断等の対策を進めていく必要があります。



●玉野取水堰（40.6k付近）の様子



●万場大橋（9.0k）付近のグラウンド利用の様子



●13.0k付近の高水敷利用の様子

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

○動植物の移動障害（グラウンド、取水堰等による）

- ・高水敷のグラウンドにより、動植物の縦断的なつながりが低い。
- ・取水堰等により回遊魚の遡上が困難になっている。

〔自然環境WG〕

- ・魚が上れるように、下流から順番に環境を考える必要がある。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・生物の生息域を分断しないような配慮が必要。
- ・堰が改修され魚道が役に立っていないところがある。

③ホームレスの不法占拠への対策を行うこと

都市河川である土岐川庄内川の河川敷などでは、ホームレスがたくさん生活しています。洪水時には大変危険であるとともに、持ち込まれた荷物が流水の障害にもなります。また、自然環境にも悪影響を与えたり、人に近づきにくいイメージを与え、川を訪れたり利用することを阻害している面があり、その対策が必要になっています。

ホームレスによる不法占拠を未然に防ぐため、放置車両や不法投棄ゴミへの対策や、人の目が届きやすいような高水敷の管理を推進していくことも重要です。

●ホームレスの人数(庄内川全体)約90人

下流部(約6~17km) :約70人

中流部(約19~26km) :約10人

矢田川 :約10人

(H15年8月現在)



■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

○ホームレス対策

- ・河道内で人が生活している実態がある。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・ホームレスなどが心配。河川敷で安心して散歩したり、遊べるような対策を。

④河川敷を美しく親しみやすい環境や景観にすること

土岐川庄内川の河川敷などには、河川を利用する人が残していったゴミや、粗大ゴミ等が堤防道路から不法投棄されており、自然環境や美しい景観を守るために、その対策が必要になっています。

また、不法投棄への対策を図り、美しく親しみやすい河川敷を維持することは、ホームレスの抑制や大雨で降った水を安全に流すことにもつながります。



●H15年10月現在の様子



■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

○不法投棄対策

- ・堤防道路の発達により、不法投棄がされており、洪水時にゴミが下流に流出し、環境汚染を引き起こす恐れがある。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・河川敷や堤防道路の周辺がゴミで汚い。対策を講じるべき。
- ・河川敷や堤防に草木が生い茂り、ゴミが溜まりやすく、見た目も良くない。対策を講じるべき。
- ・ゴミの流れていない美しい川に。
- ・ゴミをなくすための市民の活動の場があると良い。
- ・ゴミをなくすような仕組みを考えるべき。

(4) 地域に根ざした河川整備を行う。

① 歴史、文化、生活と密着した河川空間の創造を進めること

土岐川庄内川の沿川には、過去から川によって育まれた多くの歴史や文化などの資源があります。これらを活用し、上流、中流、下流で変化にとんだ景観や環境を生かしながら、また、対岸との交流を促進しながら、沿川のみなさんの生活や文化と密着した河川空間を創造することが大切です。



●きねこさ祭り(H16年撮影)



●昭和初期 下之一色風景
「庄内川と私」より抜粋(19年3月庄内川工事事務所発行)



●現在 下之一色風景(H15年撮影)

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

◆地域に根ざした河川整備

○歴史、文化及び生活と密着した河川空間の創造

- ・河川空間の文化に根ざした創造などについて考える必要がある。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・この地域にあったオリジナリティのある計画づくりを。
- ・治水工事により、地域の歴史的資源や住む人の関係が変わるのが心配。
- ・地域固有の自然が残る美しい川の風景が大切。
- ・地域固有の河川景観保全や安全のため、自転車歩行者専用道路になっても黒松並木は残すべき。
- ・地域の歴史的遺産を大切に。
- ・形として残っていない歴史をどう伝えるか。
- ・名のある岩や自然景観など「ふるさとの川風景」の要素を大切にしたい。
- ・自然環境の保全を第一に、美しい景観を創出することが望ましい。
- ・昔よく川遊びした思い出の場所を残したい。
- ・桜並木を残したい。
- ・地域の伝統的な行事を残したい。
- ・電車で見える土岐川の美しい風景が好き。
- ・竹藪を手入れして保全したい。
- ・庄内川のような川辺の風景もよい。
- ・自然を生かした風景が大切。
- ・流域と調和したきれいな川に。
- ・川と周辺の自然を総合的に保全してほしい。
- ・家庭菜園の景観をより良くすべき。
- ・町全体の美観が損なわれないように。
- ・河川を生かした、花火大会などのイベントが楽しみ。

②家族で親しめる川づくりを進めること

子どもから老人まで、散歩、自然観察、スポーツなど、友達や家族と気軽に川を訪れ、親しみ、愛着を感じられるような身近な場と機会をつくる必要があります。



●庄内緑地公園



●クロマツ並木

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

○家族が親しむ川づくり

- ・子供やその家族が川で楽しめる、親しめることが重要。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・美しい景観の中で遊び、憩いたい。
- ・安全で親しみやすいきれいな川に。
- ・騒音や排気ガスがひどい。
- ・子供や大人が安全に泳いだり。魚とりをしたり、川遊びができるように。
- ・子供が安全に遊べる場所があると良い。
- ・魚釣りを楽しめるような場や支援を期待。
- ・下流の水面を利用して競技ボートを楽しみたい。
- ・ボートやカヌーで遊べるように。
- ・気軽に水と親しみたい。
- ・子供などが安全に環境学習や自然観察できる場があると良い。
- ・子どもたちが川で遊べる（学べる）ように。
- ・子供とモトクロスを楽しみたい。
- ・川沿いで安全に、憩い、散歩したい。
- ・照明が少なく、怖い。夜でも安心して散歩したい。
- ・市民活動による自然公園づくりをすすめたい。
- ・子供をはじめとして誰もが気軽に釣りを楽しめるようになると良い。

3-5 すすめ方に関する課題

①計画づくりの初期の段階から市民参加型で進めること

河川の維持管理などの分野では、これまでも市民参加が行われています。しかし、これは部分的な参加であり、市民のみなさんの意見やニーズをより反映するためには、計画の初期段階からの全体的な関わりが必要です。

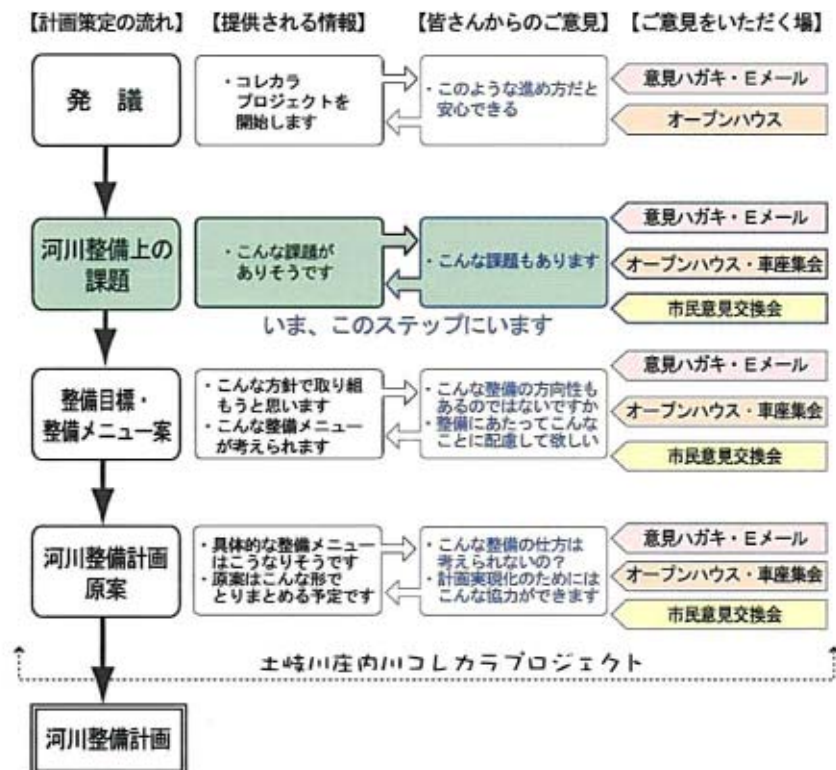
②段階的に計画を検討し、そのつどPIを行いながら進めること

これまでの計画づくりでは、一通り案ができた段階ではじめて市民に計画が公表されていたため、課題、目標、具体的な対策などの問題が同時に話し合われ、混乱を招いていました。

議論の後戻りや混乱が生じないように、計画検討を段階的に進めることが大切です。また、各段階（ステップ）ごとにPIを行い、みなさんの意見をしっかりと聴いていく必要もあります。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・計画や事業に関するプロセス、進捗状況およびその内容を逐次きちんと示すべき。
- ・計画のすすめ方は国土交通省に一任。
- ・今の計画を進めてほしい。



③計画の進め方や市民の関わり方を予め明確にすること

これまでは、進め方や市民の関わり方がはっきりと示されないまま、計画や事業が進んでしまうことが多くありました。しかし、みなさんに計画づくりに参加していただくためには、それらを予め明確にすることが必要です。



オープンハウス(平成 15 年度夏)

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・情報を一元化して、治水上の課題や計画の必要性、プロジェクトの目的、予算との関係等を分かりやすく情報提供すべき。
- ・新河川法の主旨を生かして、既存の枠組みにとられない体制で計画の検討や管理をすべき。

【参考】流域自治体から寄せられた意見

- ・整備施策効果を考慮した河川の施策展開手順の構築。〈名古屋市〉

④市民の意見を把握すること

今回の河川整備計画案づくりでは、地域懇談会（オープンハウス、市民意見交換会等）を開き、きめ細かにみなさんの意見をお聴きしています。これからも、継続的にみなさんからの意見をお聴きするとともに、どのような意見が寄せられたかという情報を広く伝える（フィードバック）ことが重要です。



市民意見交換会(多治見)

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

- ・下流から上流まで全流域の方が一同に会して意見交換できるような場があると良い。
- ・サイレントマジョリティ（表に出てこない意見）の存在を考慮すべき。
- ・意見を発信してもらうだけでなく、意見を取りに行くことも重要。
- ・住民の意見はなるべく住民の手でまとめた方が良い。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・オープンハウス等によるこのような分かりやすい情報提供や市民から意見を聞く取り組みを今後も展開すべき。
- ・地元の人が行政と市民の会議を取り仕切れると良い。
- ・地元ニーズを良く聴いて計画を進めて欲しい。
- ・もっと子供の視点を取り入れるべき。

⑤市民の意見を計画や事業に反映すること

これまではみなさんから意見をお聴きしても、その意見が反映されたのかどうかははっきりしないままに計画や事業が進められることが多くありました。しかし、市民参加を進めるためには、意見を聴くだけでなく反映していくことが大切です。みなさんの意見を計画に反映するには、賛成、反対といった議論ではなく、なぜそう考えるのかといった関心まで掘り下げて意見を聴き、上流と下流、右岸と左岸など、利害が対立する場合でもお互いに納得できる解決策を探るように進める必要があります。



車座集会(西枇杷島町)

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

- ・住民や専門家の意見をどのようにまとめていくかが課題。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・一部の専門家だけでなく、いろいろな人から意見を聴いて、整備に反映させるべき。
- ・意見が計画にどのように反映されるのか知りたい。
- ・住民から集められた意見は広くフィードバックしてほしい。

⑥市民と行政とで情報を共有化すること

市民のみなさんと行政とがお互いの状況を確認しあい、一方に情報が偏らない様に情報交換することが参加型での計画づくりには大切です。



コレカラプロジェクトホームページ

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

- ・流域委員会も、来聴者以外の来られない方々にも内容把握できるように議事録をつくり公開する必要がある。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・行政自らが地元に向いて市民と意見交換を行う車座集会のような取り組みは良い。
- ・以前あった吉根の計画の状況をしりたい。
- ・行政には地元の実情をよく知ってほしい。
- ・河川敷を利用しやすくなるような情報があると良い。
- ・川の歴史について詳しい情報を知りたい。
- ・洗堰の改修や研究結果に関する情報提供をしてほしい。
- ・水質改善の状況や取り組みに関する詳しい情報を知りたい。
- ・川と流域の関係を知りたい。
- ・川を利用する際の注意事項を周知すべき。
- ・全国の河川あるいは他の流域における各種対策の情報も知りたい。
- ・川の流量等に関する情報を随時提供してほしい。
- ・土地の特性を住民に知ってもらうことが必要。
- ・防災拠点の計画について、十分な説明、情報提供をすべき。
- ・川で生きる動植物について情報提供してほしい。
- ・土岐川観察館に関してもっと情報提供をしてほしい。
- ・地域の環境を比較できる情報がほしい。
- ・橋に関する情報を提供してほしい。
- ・川や水に関するイベント情報を知りたい。
- ・流域全体について整備状況が分かるとよい。
- ・特定構造物改築事業について、十分な説明、情報提供すべき。
- ・橋の架け替えに関する詳しい説明や十分な情報提供をすべき。
- ・桜佐地区の開発等についての情報を教えてほしい。
- ・遊水池の必要性と機能および周辺へのリスク等影響に関する情報を知りたい。

⑦行政間で連携し、効果的で効率的な計画づくりや事業推進を行うこと

これからの川づくりは、今まで以上に行政間で密に連絡をとり、情報を共有しながら、計画づくりや事業実施を効果的で効率的に進めていくことが重要です。



行政連絡会議

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・ 効率的、合理的に無駄がないように工事を進めるべき。
- ・ 状況の変化にあわせて各種計画見直しをすることも必要。
- ・ 産業廃棄物の管理体制が問題。
- ・ 早く成果をあげるように進めるべき。
- ・ 橋の架け替え、あるいは新設にあたっては、周辺の貴重植物およびコストを考慮して、効率的に行うべき。
- ・ 河川の維持管理をきちんと行ってほしい。
- ・ 誰が河川を管理しているのかよく分からない。

⑧市民主体の活動や市民と行政との協働活動を促進すること

市民のみなさんが中心になって、河川環境を良くしていこうとする取組みが活発になってきています。それらの活動をさらに活性化するためには、行政による支援や市民と行政とが一緒になって活動する場づくりが必要です。



川と親しむ子供たち(土岐川)

■流域委員会でのこれまでの議論のポイント

- ・すでにパイプを持っている団体だけでなく、地域住民との独自のパイプを持つことが重要。

【参考】地域懇談会で寄せられた意見

- ・環境教育のNPO 組織化のため、行政の協力が必要。

【参考】流域自治体から寄せられた意見

- ・住民参加による清掃など、環境整備の実施。〈多治見市〉